

令和7年度 第3回与謝野町総合計画審議会 会議報告書（要約）

日時 令和7年12月22日(月)19時00分～21時00分

場所 元気館 2階 農事研究室

出席者

委員（敬称略）

足立 英子 委員	安達 幸三 委員	石倉 直記 委員	大泉 珠希 委員
尾上 亮介 委員	川勝 健志 委員 (オンライン)	小山 富美代 委員	○坂中 紀文 委員
◎谷口 知弘 委員	津波 璃生 委員	中田 麻由美 委員	樋口 潔 委員
松田 政一 委員	味田 佳子 委員	宮本 浩司 委員	山添 謙三 委員

注) ◎会長、○副会長 川勝委員はオンライン参加

オブザーバー

徳田 裕之 氏

総合計画策定委員会、事務局等

傍聴者 なし

会議の日程

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1) 第2次与謝野町総合計画の評価検証について
 - (2) 第3次与謝野町総合計画について
 - ①分野ごとの論点について
 - ②ワークショップ
 - (3) その他
 - ・今後のスケジュールについて
4. 閉会（副会長あいさつ）

会議の経過

1. 開会

- ・事務局（企画財政課主幹）の司会で開会した。

2. 会長挨拶

（谷口会長）

- ・前回会議後、非常にたくさんの意見をいただいております、今後具体的な事業の計画を作っていく時に反映させていただきたい。
- ・今までの町民アンケートやみらい会議からの問題意識を整理し、本日は4つの分野で話し合いをしていきたい。

3. 議事

- ・最初に、会議に参加するにあたり大切にしたいこと等について「最終ゴールはこの町の将来ビジョンを描くことであり、評価結果を踏まえて将来をどう描いていくかという視点が大切」等との認識を共有した。

（1）第2次与謝野町総合計画評価検証について（資料1～3）

- ・事務局（企画財政課係長）より、資料1～3にもとづいて説明が行われた後、質疑が行われたが、特に意見はなかった。

（2）第3次与謝野町総合計画について（資料4～5）

- ・事務局（企画財政課係長）より、分野ごとの論点について資料4～5にもとづいて説明が行われた後、4つの分野に分かれてワークショップを行った。
- ・ワークショップは、論点に基づき各自の意見を付箋紙に記入して模造紙に貼り付ける形で進め、前半・後半の2回、メンバーを入れ替えて行った。
- ・ワークショップの意見は、模造紙に貼られた付箋紙を見て回るとともに、各班のファシリテーターからの発表により、全体共有した。

「生まれ育つ」

- ・与謝野町の強みである自然や地域のつながりをアピールすることで子育て環境は理解いただける。
- ・人の流れを生むような施策が必要。
- ・子どもたちには地域愛、自然について学んで欲しい。
- ・AIにとって代わられない教育が必要。
- ・不登校やひきこもりの方々にどのようなアプローチをしていくかは課題。

「働き暮らす」

- ・産業、環境、といった分野においては、子どもの頃からの関わりをいかに作れるか、いかに新しい技術や興味を引くものに触れられるか、ということが重要。
- ・自動運転などの新しい技術の活用によって、地域に関心が高まり、集まり、人の流れが作れるという視点。一方で行政だけが運営する移動のあり方ではないところも考え方として必要。

「つながる・楽しむ」

- ・キーワードは3つ。連携、目的、関係人口。
- ・連携は、広域連携の他、地区同士の連携もある。
- ・目的は、施策を進めるうえで目的を持つことが大切。
- ・関係人口は、転出者等に関わってもらうための関係人口づくりが大切。
- ・何も無いところからするのではなく、今のものをもっと活用できる。
- ・ニーズはとても大事だけれども総合計画はニーズの寄せ集めではない、その視点も必要。

「支え合う」

- ・キーワードはつながりや連携。
 - ・例えば健康づくりでは、医療機関や公民館での健康教室などをつなげる。
 - ・福祉事業所など施設が充実している中で、事業所間の人材をシェアし、専門的な支援につなげていく（今ある人々材を有効に活用していく）。
 - ・たまり場や地域活動への参画では、それぞれの活動の可視化が重要。
 - ・4つの分野を横断型に支援していくことが必要。
 - ・終活支援という視点も必要ではないか。
-
- ・全体の情報共有の後、テーブルごとで感想を共有。

(3) その他（今後のスケジュールについて）（資料6）

- ・事務局（企画財政課主幹）より、配布資料にもとづいて説明が行われ後、質疑が行われたが、特に意見はなかった。

（事務局）

4. 閉会（副会長挨拶）

- ・副会長より閉会のあいさつが行われ、閉会した。

以上